

子どもたちが「自分の答えをつくる」 テストってどんなもの？

テスト問題には、あらかじめ誰かが定めた「模範解答」が用意されている——当たり前ですか？

ところが、そんな従来型のテストには……ありえない!? 子どもたちが自分自身で「自分の答えをつくる」テストがあるといいます。

「考える」を楽しめる、受けることで子どもたちが「自ら学び進むチカラ」を育てていくテストだといいます。それはどんなテストなのか。朝日新聞「わかるわかる運動」が日能研に聞いてみました。

自分で考える、自分の答えをつくる。 だから楽しい

計算練習を繰り返す。教科書にある「知識」「正解」「解法」を覚える。その獲得量を測るテストで高い点数をとるために——ちょっと待って。そのテストは、子どもたちの何を測りたいの？ 記憶力？ 処理能力？ それとも従順さ？ コンピューターがかくも活用され、さらにはAI(人工知能)の進歩が雇用を脅かす……などと騒がれている時代に？

未来の大人たち(=いまの子どもたち)に求められるのは、日々変化する“いま”を自分なりに読み取り、判断するチカラ。“問題=未知”にも当たり前に取り組み、仲間と協働し、そのときに適した「自分たちの答え」をつくり出していくチカラ。ならば、いまの子どもたち(=未来の大人たち)に必要なのは、どんなテストでしょう。従来型のテストとは、ねらいも役割も評価方法も価値観もまったく違うテストのはず。子どもたちが、「自分ごと」として、自分で考える、自分がつくる答え。——子どもたちにそんなテストを！ テストで学んでほしい。楽しんでほしい！——日能研のCSRであり、強い想いです。

テストの主人公は子どもたち自身。そこに用意された答えはありますが、制約ではありません。子どもたちは、アタマとココロをフル回転させて、自分で考え、判断し、探求し、だから真剣に人に伝える。その過程で学ぶ、アクティブラーニングです。自分が主体だからこそ生まれる「楽しい」「おもしろい」という気持ち。「考える」「学ぶ」「楽しい！」——だからまた「考える」「学ぶ」……このポジティブループの中で、子どもたちは(自ら学び進むチカラ)を育んでいきます。私学進学後も、高等教育(大学)でも、社会に出てからも、一生使い続けることのできるチカラ(持続可能学力)です。

「模範解答」なんて…… 子どもたちの答えの輝き

中央にあるのは日能研のテスト問題の一例。従来型のテストとは、まるで違います。大きな特徴として、先に答えが定まっていないこと。え？ こんな

	あなたが「発明」をするときに、どのような力が必要だと思うか、理由を合わせ自由に書く。	
そうじ機になりきって、そうじ機の言いたいことや気持ちを自由に考える。		立ち幅跳びのクラス代表選出にあたり、予選結果表をもとに、言葉や結果数字を使って自己アピールをする。
	5月に売れたあんぱんの個数表(一日ごと)をもとに、7月は一日何個売れるかを予想する。	
ある「お知らせ手紙」を読んで、その手紙の問題点と、解決する工夫を考える。		筆者が異なる同じ「伝記」を二編読んで、書き表し方のちがいがから考えたことを書く。
	ある和菓子店の成り立ちのお話を読み、文字が異なる二種類ののれんから適していると思う方を選び、その理由を書く。	
「このカベには紙を貼ってはいけません。」という張り紙を見て、思ったことを書く。		未就学の子どもに、わかるように「給食」を説明する。
	異なる三つの村のそれぞれのお祭りの特徴を読んで、そのうちの一つを選び、そのお祭りの「のぼり旗」のデザインを考える。	

問題では、答えが幾通りも、いや、子どもの数だけ出てきてしまうのでは？——と思われませんか？ そうなんです。あらかじめ、ただ一つだけの答え「模範解答」が存在しているなんて、社会と照らしたら極めて不自然、とても「特殊」なんです。活躍している大人の周りに、そんな「特殊」なんてないですよ？ だから日能研のテストには解答例こそありますが、「模範解答」はありません。そもそも「模範」だなんて、子どもたちに対しておこがましい！ ことを知っているから。だって先に答えをつくっておいても、子どもたちの輝く答えを前にしては、所詮へちまこでかかないせんもの。

だから、子どもたちが問題の世界にすんなりと入り込み、「未知」の問題に対しても、自分のこととして取り組めるよう、身近なものや出来事題材にと、徹底していることも特徴の一つ。「知の冒険」を思う存分楽しめる問題であるために。

日能研の問題に向き合う子どもたちは、「こういうときは、こう答えておけばいい」「イヤだけど、こう答えないと○にならない」などと、「模範解答」にご機嫌伺いなんかしない。枠にはまることなく、自由自在、縦横無尽に、楽しそうに自分の考えや発想を広げていきます。「自由」だと気づくから、思わず考えたくなる、答えたくなる、伝えたくなるのです。だから、「記述式」の問題が多いのも特徴——読み手を意識してわかりやすいように工夫した表現、独自の視点で鋭いポイントをつく意見、おもしろくしようと何度も何度も書き直した足跡……大人の私たちがは考えもつかない、ときに突飛で、驚かされる、うならされる子どもたちの答えとの出会いがとておもしろい。その子自身が問題を読んで何を感じ、どのように考え、判断し、表現しようとしたのか——そのプロセスをたどることは、まさに「その子自身」と出会うこと。私学の中学入試問題に「記述式」が多いのも、その子自身を知ることができるという、同じ理由からでしょう。

さらに日能研のテストは、子どもたちも「自分自身」と出会い、「私」をさらに育てていくことのできる評価(日能研ルーブリック)を採用。「未来の学び」を子どもたちと一緒に作る評価方法です。

この秋、ぜひ「自分の答えをつくる」テスト、体験してください。

*日能研ルーブリックの詳細は、日能研ホームページをご覧ください。
<http://www.nichinoken.co.jp/event/free/about/rubric.html>



なるほど!

子どもたちが、自由に考えを広げられる、
思わず答えを書きたくなる問題で、「学ぶ」を楽しみ、
〈自ら学び進むチカラ〉を育てていくテストなんだね。



つながっている——私学にも、未来にも。入り口は、このテスト。

10月23日

小3

小4

小5

10月30日

小2



保護者会同時開催!

「テストから学ぶということ」「中学受験最新事情」「未来へつながる学び」についてお話しします。

テストの詳細・お申し込みは

日能研 検索

またはお近くの日能研へ!
以下のQRコードからも!

学校行事などで都合がつかない場合はどうぞお気軽にご相談ください。



日能研 全国テスト

参加無料

【科目】2科目(国語・算数)
【会場】お近くの日能研各校
【時間】1回目 9:00集合
2回目 13:00集合
※一部、教室によって開催時間が異なります。